中山五月台中学校区 概要 (兵庫県宝塚市 中山台コミュニティエリア)

中山台コミュニティ災害対策委員会

- -人口約14,000人 約6,000世帯
- ・高齢化率約33% (平成27年3月期住基台帳より)
- ・山間部を削った切土とその土を埋めた盛土の街
- ・3つのロックヒルダムによる土止めで造成された住宅街
- ・広範囲の土砂災害警戒区域があり、地震や土砂災害が想定される
- ・ 高齢化地域と若年層地域がはっきり分離

大規模災害時には地域外からの勢力による治安対策に不安を抱える





兵庫県宝塚市 第6ブロック 中山五月台中学校区





高低差の大きな街並みが大きな特徴

訓練実施の考え方

中山台コミュニティエリアの現状

1 地域

- 長尾山山系の山地、丘陵地(地盤は 強固であるが、災害時 の孤立 化、土砂災害、山火事の発生が懸念)
- ニュータウンの開発進行

2 人

- 全体的な高齢化(高齢化地域と若年層地域がはっきり分離)
- 自治会未加入世帯の存在
- コミュニティ、自治会及びその他の活動により住民間交流は 活発
- 3 その他
 - 各世帯1~2両の私有車保有(主要な移動手段)
 - ペット(犬)を飼う世帯多
 - 治安に関する不安要素あり



災害想定

- 当面は南海トラフ巨大地震
- 集中豪雨に伴う土砂災害

訓練目的

中山台コミュニティエ

リア住民自らの手によ

る、本格的救助活動実

施までの間の、生き残

り、自活できる防災力

の構築

平成24年度実施成果

1 良好な点

- 地域の防災意識が高揚(新たに設立した自治 会の参加。東校の参加。訓練スタッフとメニュー の増加)
- 数回の反省会及びアンケートの実施による確実 な成果の積み上げ。

2 改善を要する点

- 参加者数は途上状況にあるが、全体的に低調
- 現実的な訓練が未実施
- 訓練統裁機能が不十分

平成27年度以降訓練実施要領

1 目 的

中山台コミュニティエリア は現実的な避難訓練と 必要な機能別訓練を段階 的に実施し、大地震等の 災害発生から本格的救援 活動が始まるまでの間、 自活できる防災力を完整 させる。

2 実施要領

- (1) 年度に1回の基準で 大規模避難訓練(仮称) を継続実施
 - (毎年見直しを実施)
- (2) 訓練に連接して、分析検討会及び、生き残るための命題研究を実施して、避難所運営の在り方、その他生き残るために必要な基盤の整備について検討を実施

防災力向上の為の訓練中期計画

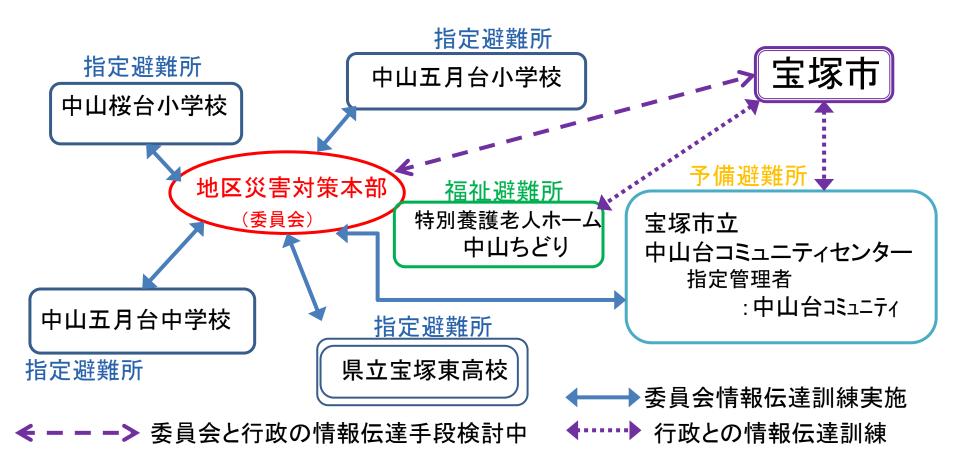
目的	中山台コミュニティエリアは現実的な避難訓練と必要な機能別訓練を段階的に実施し、大地震等の災害発生から本格的救援活動が始まるまでの間、自活できる防災力を完整させる。						
年 度	23	24	25	26	27	28	29
2次目標 全ての基盤を完整 1次目標 26年の訓練までに全世帯訓練参加	7 防災力 #3大規 10/ #2大規 12/ #1大規	規模避難訓練 _ / 20(日) 模避難訓練 / 27(日) 模避難訓練 _ / 2(日) 模避難訓練 _ / 2(日) 英避難訓練 _ / 2(金)	か析検討会 — — じっくりと防を高揚させる	生物を検える。	7月 型域として き残る手段 検討する で検	一 	7大規模避難訓練 9月 総合的に練度 を向上させる期 間
訓練想定		南海トラフ巨大地震(M9.0) ※ 29年度以降は集中豪雨等による土砂災害と大地震を交互に実施					
	│ │ 避難•受付		避難•受付	避難•受付			
訓練実施 項目 (基準)	炊き出し	炊き出し	避難所の運営	避難所の運営		の訓練に現実的	
	要援護者	自宅避難者	要援護者	要援護者	何 与	した訓練の実施	11.
	煙体験	初期消火	自宅避難者	自宅避難者			
	水出し	段ボールベット組 立	防犯用品展示	防犯用品展示		災害派遣部隊と	の協働
	本部設置	防犯用品展示	炊き出し	炊き出し			
	情報伝達	手作り食器体験					
		食糧持ち寄り	_	-3			

2011年2月、災害対策委員会発足

大規模災害発生時のエリア内連携をスタート 5年間の訓練の成果を地区防災計画として完成

2012年から、毎年、大規模避難訓練を実施

エリア内で、地域住民による地区災害対策本部機能訓練を実施



災害の備えとして大切なもの・・・

物資の備蓄

連絡先情報

家族・近隣との話し合い

既往症情報

人と人との絆

落合う場所の約束

通信手段 の確保 お薬手帳

正しい知識

訓練実施までの考え方・

- * 大規模避難訓練時、参加者アンケートを実施
 - 〇次年度実施の有無
 - 〇開催時期



○訓練内容 などなど 自分たちでつくる手作りの訓練計画

*何故素人が手作りするの? 町のことを一番知っているのは、私たちだから 失敗しても、経験することが大切だから。



一人でも参加者が増えたら、大きな前進!

地区防災計画の検証

第5回大規模避難訓練2015年12月6日(日)実施

参加者約700名 (一次集合のみの参加者含む)

地域災害対策本部

連携

〈仮想〉 宝塚市災害対策本部





2015年12月6日(日)午前8時30分震度6強の巨大地震発生 災害対策委員会緊急会議において、地区災害対策本部立上げを決定。 副委員長が本部長に就任



初めて本部要員になった方も、 無線機を使った通信訓練に挑戦 無線機の配備が待たれます。 ← 座標を使った位置情報の伝達に四苦八苦

茶色は土砂災害 警戒区域 -





最大の壁

阪神淡路大震災で 大きな被害が 無かったため、 安心神話からくる 防災意識の低さ



防災意識調査アンケートの実施・HUGによる学習会・防災バスツアー・普通救命講習など、たくさんの企画と丁寧な話合いを重ね、エリア内の防災意識を向上を目指している。

当面の課題

単位自治会ごとに結成されている自主防災組織の活動を充実 手上げ方式で集めた災害時要支援者の支援体制を実動化 発災時の初動の申し合わせを徹底 公助に頼らない体制を構築



地域防災計画に 位置付けられた後 宝塚市の 支援に 大きな期待

策定の成果



これからの取り組みとして・・・

- 〇応急救護所開設訓練の充実
 - 地域住民によるトリアージを研究し、トレーニングします。
- 〇災害時に協力していただける人材の発掘と登録

ハム無線を使える方、バイクの伝令などで走っていただける方、 医療従事の経験のある方 Etc. の人材バンクの作成を目指します。

- 〇備蓄についての検討
 - 地域としての備蓄と家庭内の備蓄をそれぞれ検討します。
- 〇参加者増員対策と基礎知識の浸透

訓練内容の充実と同時に、参加者増のための取組を検討します。

〇人が変わっても継続できる組織体制の構築

「地域連携の大切さ」を周知し、理解を求めます。

何よりも大切な事は・・・継続すること・・・

〇反復練習の重要性を信じて、

これまでの大規模避難訓練を継続実施「人は極度の緊張の中、

経験したことのない行動はとれない」

平成27年11月30日 宝塚市へ提出した地区防災計画 今後は、訓練で内容を検証し、 必要に応じた見直しをしながら、 地域住民の理解を深めます。